家庭数配布

こくぼの子

令和５年度全国学力学習状況調査特集号　９月２５日発行
発行元　国母小学校 055-224-4608

令和5年度　全国学力・学習状況調査結果について

１　調査結果の概要

今年度の「全国学力・学習状況調査」は、４月１８日に実施され、本校でも６年生が参加しました。調査内容は、【教科に関する調査】と【生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査】とに分かれており、【教科に関する調査】は国語と算数が実施されました。この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善などに役立てることを目的にしています。

本校の調査結果の概要を以下のようにまとめましたので、保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思います。

本校の結果は、県や全国の平均正答率と比べるとやや下回っており、特に、算数に課題があることがうかがえます。無解答率については、前半の問題では県や全国の平均よりも低くなっていて、ねばり強く問題に取り組んでいる様子がうかがえますが、後半の問題ほど無解答率が高くなっている傾向が見られることから、時間内に問題を処理しきれなかった児童もいたことが考えられます。

２　教科ごとの本校の状況と課題

国語

「読むこと」の領域についての問題と漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題は、県平均や全国平均と同程度かやや上回っています。一方で、「話すこと・聞くこと」の領域や「知識・理解」の領域のうち、「情報の扱い方」や「言葉の特徴や使い方」に関する事項についての問題に課題がみられました。

（１）「話すこと・聞くこと」の領域について

課題が見られたのは、問題３の一（１）（２）の２問で、これは学校ボランティアの人たちを全校に紹介するために、登下校でお世話になっている見守りボランティアにインタビューをする場面を想定した問題になっています。（１）（２）の２問は、インタビューした内容について確かめたい点を聞く質問と、具体的に知りたい点を聞く質問の違いを問う問題になっており、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力が求められています。

間違えて解答した児童のうち、７割ほどが（１）（２）の両方とも間違えて解答しており、確かめたい点を聞く質問と具体的に知りたい点を聞く質問との違いを捉えることができなかったと考えられます。

（２）「情報の扱い方に関する事項」・「言葉の特徴や使い方に関する事項」について

課題が見られたのは、問題１の一と問題３の三です。

問題１の一は、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書く場面を想定し、学校の米作りの問題点とその解決方法について書かれたメモから、「原因」と「結果」など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題です。この問題に間違えて解答した児童の中には、情報と情報との関係には、「考え」と「理由」や「事例」、「全体」と「中心」、「原因」と「結果」など様々な関係があることを理解しておらず、「考え」と「事例」の関係など、自分がよく知っている内容を選択してしまった児童もいたと考えらます。

問題３の三は、日常よく使われる尊敬語の「おっしゃる」と謙譲語の「うかがう」の使い方を理解しているかを見る問題です。本校の誤答で多かったのは、「うかがう」を「お聞きになる」としたもので、謙

譲語の役割や例について、十分に理解できていないと考えられます。

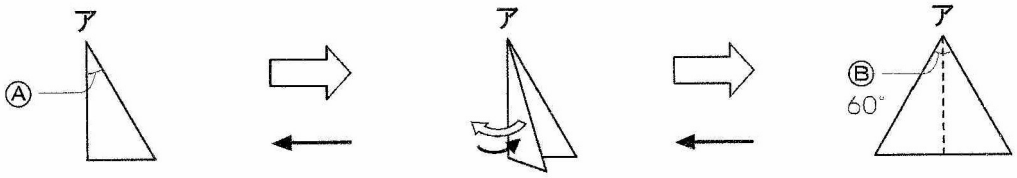
算数

伴って変わる二つの数量から、変化の特徴を読み取り、知りたい数を求めたり、その二つの数量の関係が比例の関係ではないと判断し説明したりする問題では、正答率が全国平均をやや上回っている状況です。

課題が見られたのは、「図形」の領域と「データの活用」の領域、そして加法と乗法の混合した式を活用する問題です。

（１）「図形」の領域について

課題が見られたのは、問題2の（１）（２）（３）の３問で、それぞれ台形、正方形、正三角形の意味や性質について理解しているかを見る問題です。（１）では、示された図形を台形と答えられたものの、「向かい合った１組の辺が平行」という台形の性質と「向かい合った２組の辺が平行」という平行四辺形の性質を区別できなかった誤答が多くみられました。（３）は、図のように切って開いた三角形が正三角形になるときのⒶの角度を問う問題です。６０°という誤答が多く、Ⓐの角がテープを切って開く前であることに着目せず、正三角形の一つの角の大きさが６０°であることから、６０°と解答していると考えられます。



（２）「データの活用」の領域について

課題が見られたのは、問題4の（１）（２）の２問です。（１）は示された表から、運動した時間が３０分以上の日数を求める問題で、「以上」の意味を理解しているかを見る問題です。この問題の誤答では、３０分を含めずに日数を数えたものが最も多くありましたが、そのほかにも３０分「未満」と混同していたり運動した時間の合計を解答したりしていたものもありました。（２）は、複数のグラフから見いだした違いを、問題の中に示された例文と同じように、二つの視点に沿って言葉と数で記述する問題です。この問題では、二つの視点のうち片方の視点しか示さずに記述していたり、グラフから読み取ったことを正確に記述できなかったりする誤答が多くみられました。また、無回答率も高かった問題です。

（３）「加法と乗法の混合した式を活用する問題」について

課題が見られたのは、問題３の（１）（３）の２問です。

この問題は、加法と乗法の混合した５×２８＋４×２８と（５＋４）×２８を場面と関連付けて読み取り、計算をしたり分配法則を用いたりすることができるかをみる問題です。（１）は式中の波線部が表している意味を場面と関連付けて読み取る問題ですが、式全体が表している意味を読み取って解答していると思われる児童が多くみられました。（３）は、（１５１＋４９）×３と１５１×３＋４９×３を計算する問題ですが、（１５１＋４９）×３＝６００と正答しているものの、１５１×３＋４９×３＝１５０６と間違えている解答が多くみられました。１５１×３＋４９×３の計算をするときに、最初から順番に計算してしまい、かけ算の１５１×３と４９×３を先に計算してから、それぞれの答え（積）を足すという決まりが使えていないことが考えられます。また、この二つの式が結合法則や分配法則を用いたもので、計算の答えが同じものになるという理解も十分でないことが考えられます。

３　教科ごとの主な改善点

国語

改善点①　目的をもって相手に質問し、必要な情報を聞き出す指導

学習指導に当たって、インタビューなどをする際に、どのような目的で聞くのか、自分が聞きたいことは何かなどをよく確かめて聞くことができるように指導を進めていきます。 ５、６年生では、自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのか、そのためにどういった情報を相手から引き出そうとしているのかなどを明確にして聞き、話の内容を捉えることが求められています。相手の話の中に、目的に関わる言葉が出てきたときには、その言葉を取り上げて詳しく聞くなど、分からない点や確かめたい点などを質問するという視点を明確にして指導を進めていきます。

改善点②　情報と情報との関係についての理解を深めていける指導

情報と情報との関係を理解するために、様々な情報の中から原因と結果などの関係を見いだし、結び付けて捉えることができるような指導をすすめていきます。例えば、情報を整理する場面では、必要な情報に印を付けさせたり、情報と情報を矢印でつながせたり、 表を用いてまとめさせたりするなどして、情報と情報との関係を視覚的に捉えるさせることができるような指導を工夫していきます。

改善点③　日常よく使われる敬語を理解し使い慣れるような指導

学習指導に当たって、日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるように指導を進めます。日常生活の実際の場面を通して、尊敬語と謙譲語の意味について理解できるように指導するとともに、「おっしゃる」や「申す」のように特別な言葉を使った言い方があることや、「お（ご）―になる」や「お（ご）―する」のような言い方があることなどを理解できるように指導を進めていきます。

算数

改善点①　図形の辺や角、平行に着目させ、見通しをもって作図ができるような指導

図形の辺の長さや角の大きさに着目して図形の意味や性質についてまとめたり、四角形の場合は、平行などに着目していくつかの四角形を分類したりする学習を進めていきます。また、実際に図形を描いたり作ったりする活動を行うときには、目的の図形にするために辺の長さや角度の大きさはどのくらいにすればよいのかなど、見通しをもってから活動させる学習を進めていきます。

改善点②

「以上」「以下」「未満」という算数での用語の意味について、しっかり理解を定着させるとともに、日常生活の具体例を取り上げて学習を進めたり、数値を少ない順に並び替えて「以上」などの意味について視覚的に捉えさせたりすることができるように指導を工夫していきます。また、複数のグラフを比べ、同じところや似ているところ、少し違うところや大きく違うところを見いだす学習やグラフから特徴や傾向を捉えさせたり、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、分かりやすく説明させたりするような学習活動も大切にしていきます。

改善点③

式の中の数値や計算は、問題場面の何を表しているのかを図などを用いながら考えさせたり、児童同士で説明しあったりする学習を大切にしていきます。また、結合法則や交換法則、四則計算のきまりについて、日々の学習の中で復習や確認を繰り返し進めていきます。

４　質問紙調査の状況と傾向

（１）基本的生活習慣

「毎日、朝食を食べるか」「毎日、同じ時刻に起きるか」という質問では、ほとんどの児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的な回答をしていますが、「毎日、同じ時刻に寝るか」という質問では、肯定的な回答の割合が若干下がっています。

※以下、「肯定的な回答」とは、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」という回答です。「否定的な回答」とは、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」という回答です。

（２）達成感、規範意識、自己有用感等

「自分には、よいところがあるか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれているか」では、ほとんどの児童が肯定的な回答をしています。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」は、全員が肯定的な回答をしています。また、「人の役に立ちたいか」「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」でも、ほとんどの児童が肯定的に回答しています。

（３）地域や社会に関わる活動について

「今住んでいる地域の行事に参加しているか」では、肯定的な回答と否定的な回答の割合が半々でした。昨年度までコロナ禍で地域の行事などが中止になっていた影響も大きいのではないかと思われます。また、多くの児童が、「地域や社会のために何かしてみたい」とか「外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知りたい」「日本や自分が住んでいる地域のことを、外国の人に知ってもらいたい」と考えている傾向が見られました。

（３）学習習慣、学習環境、ＩＣＴ機器の活用

「本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行くか」では、「ほとんど、または、全くいかない」と答えた割合が半数近くになっています。一方で、「読書は好きか」では、肯定的解答が多くの割合を占めています。読書は嫌いではないが、図書館などに行く時間や機会が少なくなっていることがうかがえます。

「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」では、多くの児童が肯定的な回答をしています。また、平日の授業以外の学習時間は、ほとんどの児童が「３０分以上」と回答し、そのうち半数以上が「１時間以上」となっています。休みの日も、ほとんどの児童が学習に取り組んでいるようです。ここ数年で家庭学習に取り組む傾向が、本校では大きく向上しています。平成２９年より、家庭学習の方法を整理し、ご家庭にも協力をお願いする中で成果を上げている部分だと思います。今後も家庭との連携を図り、家庭学習の習慣化を一層定着させていければと思います。

ＩＣＴを活用した学習に関する質問では、授業や家庭学習でパソコンやタブレットなどのＩＣＴ機器を学習に使用していると回答した児童の割合が、県や全国よりも高くなっています。また、ほとんどの児童がＩＣＴ機器の利用は勉強の役に立つと回答しています。本校では、昨年度から、ＩＣＴ機器を活用した授業の在り方について校内研究を進めています。ＩＣＴ機器を効果的に活用することにより、児童の学習をさらに深めていけるようにしていきたいと考えています。

（４）主体的・対話的で深い学びと総合的な学習の時間、学活、特別の教科道徳について

自分の考えを発表したり、学習での課題の解決に向けて自分で考えながら取り組んだりするという点で、苦手意識をもっている児童が、やや多い傾向が見られました。また、学習した内容について、分かったことや、よく分からなかったことを整理して次の学習につなげていくことが、あまりできていないと回答する児童も見られました。

また、総合的な学習や学級活動、特別の教科道徳についての質問からも、発表したり話し合い活動を通して自分の考えを深めたりすることが、あまりできていないと回答している児童が同じくらいの割合でいることが窺えました。

教科学習はもちろんですが、児童会活動や行事の取組なども通して、学習や活動の意義を感じさせたり考えさせたりすることができるような指導を今後も継続して進めていくことで、児童が自ら考え主体的に学習したり活動したりできるようにしていきたいと考えています。